10.27 市長発言要旨

2032 年度開院へ、新病院の整備基本計画まとまる

皆様、お集まりいただきありがとうございます。
10 月の定例記者会見にあたり、私から、本市の未来の医療を形作る宝塚市新病院整備基本計画の策定について発表いたします。
本年５月の会見でも申し上げましたが、この新病院は単なる「建物の建て替え」ではありません。医療・福祉・介護・保健をシームレスにつなぐ「たからづかモデル」の心臓部であり、市民の皆様の「命と暮らしの伴走者」となる究極のまちづくりプロジェクトです。
本計画の策定に先立ち実施したパブリック・コメントでは、市民や関係者の皆様から、計 53 件もの熱意あふれるご意見が寄せられました。
新しい医療への期待の声はもちろんのこと、規模や費用に対する真摯なご指摘など、その一つひとつが、この街の未来を真剣に考える「市民の皆様の切実な声」です。
私たちはこれらの声を単なる意見聴取として終わらせず、今後の詳細な設計、工事段階、そして開院後の運営に活かしてまいります。

今回策定した基本計画では、本院が目指す方向性として「信頼される急性期病院」「地域医療を支える病院」「持続的な医療提供が可能な病院」の３本の柱を明確に掲げました。感染症対策やプライバシーの保護を重視した「全室個室化」を目指すことをはじめ、ロボット手術など高度ながん診療の強化、そして災害や新興感染症にも揺るがない強靭な体制づくりを盛り込んでいます。 概算事業費約 401 億円、令和 14（2032）年度中の開院を目指す本事業は、多大なるご寄付をお寄せいただいた市民の皆様の力強い「思い」が土台となっています。
今後も、主役である市民の皆様の声に真摯に耳を傾けながら、本市にとってかつてない規模となるこのプロジェクトを、総力を挙げて推進してまいります。 私からの発表は以上です。パブリック・コメントの実施結果や基本計画書の詳細につきましては、担当からご説明いたします。